世界銀行によるプロジェクト

ブラジル「Technical Assistance in Implementing a Pilot of Agriculture Drought Monitoring and Prediction」
－農業的干ばつのリアルタイムモニタリング・季節予測システムの開発－

ブラジル北東半乾燥域は、2012 年から 5 年間連続した干ばつ被害を受け、歴史的な貯水池における低水位が記録されました。しかしブラジルでは、農業学的干ばつのマネジメントを向上させるための特定のツールは当時はなく、そのため世界銀行は、水の安全保障に対するアプローチを推し進めるための知識・能力を強化する多くの取り組み、とりわけブラジルにおける干ばつ監視・予測の確立を強く支援していました。

そこで世界銀行は、ICHARM の所有する干ばつ監視・予測システムに着目し、2018 年 4 月、ICHARM へブラジル北東域における農業的干ばつ監視・予測研究プロジェクトを委託しました。



図 1　セアラ州の位置

本プロジェクトでは以下の 3 つの業務を実施しました。

1) ブラジル北東域における干ばつ監視・予測システムの開発、
2) セアラ州における干ばつ監視・予測システムの開発、
3) 開発したシステムをブラジルの他の州や LAC 諸国に適用する戦略を構築するための、プロジェクト結果の評価

2018 年 6 月には、第 1 回 face to face ワークショップがフォルタレザ（セアラ州の州都）で開催され、世界銀行、ICHARM、Ceará State Meteorology and Water Resources Foundation (FUNCEME)、Secretariat of Agricultural Development of Ceará (SDA)、Federal University of Ceará (UFC)、University of Brasilia (UNB) など多くの機関が参加しました [1)]。



写真 1　第 1 回 face to face ワークショップ

FUNCEME は、高空間分解能の土地被覆データや多地点の地上観測降雨データなどのデータを所有し、気象学的干ばつ監視・予測を行っている研究機関であることから、FUNCEME の 2 名の研究者が世界銀行より推薦され、2018 年 10 月の 1 カ月間、ICHARM に滞在して、研修を受けました [2)]。



写真 2　第 2 回 face to face ワークショップ

2019 年 3 月 26 日、第 2 回 face to face ワークショップがフォルタレザで開催され[3]、ICHARM は、セアラ州における干ばつシステムとバナブイユ川流域における WEB-DHM を紹介すると共に、本プロジェクトにおける開発システムと個人農家を繋ぐ Science facilitator が重要であることを説明しました。

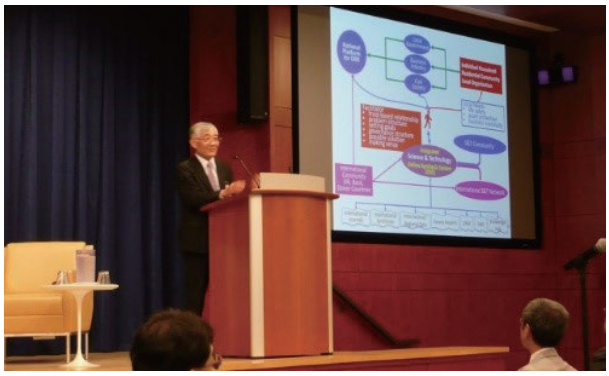


写真 3 水・災害に関する日本－世界銀行セミナー

2019 年 6 月 26 日には水・災害に関する日本-世界銀行セミナーが、6 月 27 日には Japan-World Bank Deep Dive into Agricultural Drought 会議がワシントン D.C. で開催されました。ICHARM は、本プロジェクト成果の詳細のみならず、アフリカへの展開に関する過去の実績・最新情報を紹介しました。これにより本プロジェクトの成果を世界銀行の関係者と深く共有することができました。

開発した干ばつ監視・予測システムの概要は、こちらをご覧下さい。

※詳細は以下 ICHARM ニュースレター各号の記事を参照してください

1) https://www.pwri.go.jp/icharm/publication/newsletter/pdf/icharm_newsletter_issue50.pdf
2) https://www.pwri.go.jp/icharm/publication/newsletter/pdf/icharm_newsletter_issue51.pdf
3) https://www.pwri.go.jp/icharm/publication/newsletter/pdf/icharm_newsletter_issue54.pdf